

# 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

## 平成14年度終了地域事後評価報告書

平成15年10月

独立行政法人 科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会

### 1. [事業の概要](#)

### 2. [評価実施方法](#)

### 3. [地域ごとの事業展開および評価](#)

### 4. [活動実績](#)

#### (1) [成果一覧](#)

#### (2) [地域ごとの活動実績](#)

- ① [可能性試験試験テーマ名](#)
- ② [諸事業に展開した例](#)
- ③ [実用化・企業化された事例](#)

#### 参考資料

- ・[地域振興事業評価委員会委員名簿](#)

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成14年度終了地域事後評価報告書

平成15年10月  
独立行政法人 科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会

#### 1. 事業の概要

##### (1) 目的・趣旨

「地域の限られた科学技術資源を有効に活用して研究開発を行うためには、その触媒役というべき優れたコーディネータの存在が不可欠である。コーディネータの役割は、優れた研究シーズとニーズの発掘・結合、優秀な人材の確保、適切な研究チームの組織、資金の調達等多岐にわたる。コーディネータにはこれら高い能力が求められ、地域はこうした優れた人材の育成・確保に努める必要がある。」

本事業は、上記の科学技術会議第22号答申を受け、地域のニーズをふまえた地域内外の人材をコーディネータとして育成しながら、コーディネート機能の充実を図る地方公共団体の取り組みを支援し、文部科学省や科学技術振興機構等の諸制度を効果的に活用しつつ、地域における科学技術振興と新技術・新産業の創出を図ることを目的に、平成8年度から開始された。

本事業においては、優れた研究開発人材の発掘、研究資源情報の蓄積、研究情報ネットワークの構築、研究者等を対象とする人的交流ネットワークの構築といった機能を地域における科学技術振興のための財団等に構築することを目的としている。

本事業の終了後は、地域に形成されたコーディネート機能を都道府県が継承し、地域における科学技術の振興と地域経済の活性化、生活の質の向上、知的資産の拡充等に向けた活動が展開されることを期待している。

##### (2) 事業概要

i) 都道府県からの申込を受け、文部科学省が本事業を実施する都道府県及び地域研究開発促進拠点(拠点機関:地域における科学技術振興のための財団等)を選定

ii) 科学技術振興機構は、拠点機関に対し科学技術コーディネータを委嘱。科学技術コーディネータは次の事業メニューを行い、さらにその成果を文部科学省や都道府県等の公募型諸制度へ展開。

###### ①フィージビリティ・スタディ

- ・研究会による地域の研究シーズ・技術ニーズの探索
- ・研究シーズ育成のための要素技術や研究ニーズ確認等の調査
- ・本格的な研究開発の前段階の可能性試験の実施

###### ②新技術説明会(フォーラム)

- ・地域企業に対する技術シーズの紹介

###### ③開発あっせんのための技術加工

iii) 都道府県及び拠点機関は科学技術コーディネータの支援体制の維持・拡充に配慮し、本事業の成果の普及・増進を図る。

##### (3) 事業費

1 地域当たり年間4千万円程度(人件費含)

##### (4) 事業実施期間

4年間(原則)

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成14年度終了地域事後評価報告書

平成15年10月  
独立行政法人 科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会

## 2. 評価実施方法

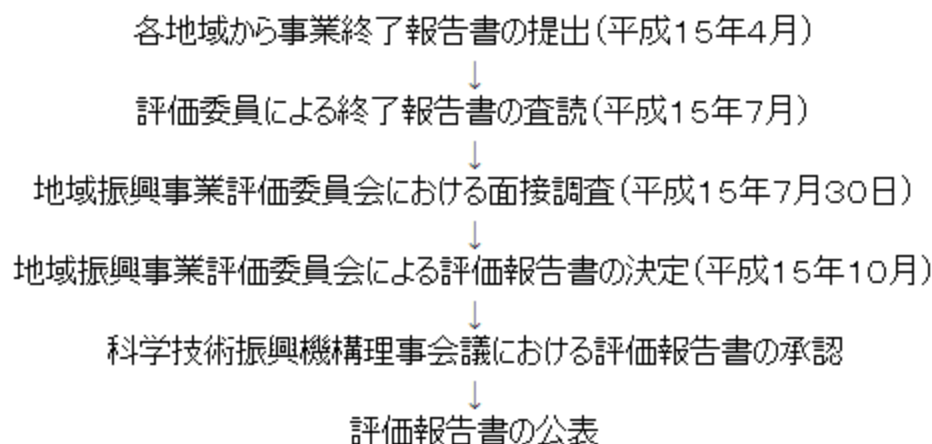
本評価は、科学技術振興機構の地域研究開発促進拠点支援(通称RSP:Regional Science Promotion Program)事業(ネットワーク構築型)について、平成14年度に終了した6地域を対象として、科学技術振興機構に設置された地域振興事業評価委員会によって行われた事後評価である。

評価結果は、地域から提出された終了報告書および平成15年度第1回地域振興事業評価委員会(平成15年7月30日開催)において行われた面接調査結果にもとづき、とりまとめたものである。

評価の観点は次のとおりである。

- ① 地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況
- ② 可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況
- ③ コーディネート活動の公開状況
- ④ 地域におけるコーディネート機能の構築状況および波及効果

#### <評価のプロセス>



## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成14年度終了地域事後評価報告書

平成15年10月  
独立行政法人 科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会

#### 3. 地域ごとの事業展開および評価

福島県 長野県 鳥根県 山口県 徳島県 佐賀県

##### (1) 福島県

拠点機関	：財団法人 福島県産業振興センター
科学技術コーディネータ	：長嶋 直之
事業実施期間	：平成11～14年度

###### ①地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

企業150社のニーズ調査、研究者855名のシーズ調査に基づきデータベースを作成し、ホームページでの公開、更新も適切に頻度高く行われている。研究会は技術分野別に、継続的に、延べ約100回開催され、活発な活動と評価出来る。会津大学、日本大学工学部、いわき明星大学の3大学連携を継続し、福島県立医科大学、福島大学からのシーズ発掘と、地域における更なる企業ニーズ調査が推進されることを期待する。

###### ②可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

27件の可能性試験から商品化に進んだもの4件、特許申請が16件ある。可能性試験「県産農産物を利用した機能性食品の開発」から発展して、福島県産官共同研究研究事業に橋渡しされ、イソフラボンを多量に含む大豆(東北125号)が開発された。具体的成果や、研究者がベンチャーを起こした事例もある。他事業への展開を促進するためには、地域における産学連携を更に緊密にすることが求められる。結果として、研究成果へのベンチャーからの引き合いも盛んになることを期待する。

###### ③コーディネータ活動の公開状況

福島県企業データベースに7,044社、研究者データベースに590名を収録し、CD-ROM、ホームページで公開する他、新技術フォーラムが9回開催され(毎回参加者約100名前後)、着実なコーディネータ活動・公開状況と評価できる。  
今後も公開情報の維持・更新が継続して実施されることを期待する。

###### ④地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

新技術フォーラムと技術分野別研究会の2本立ての事業実施により産学間の垣根が低くなった他、コーディネータ2名の常駐が実現した。3大学研究連絡会議、東北地区RSP連絡会議、県内大学等に配置されたコーディネータ15名の事務局といったネットワーク構築への取組と、他事業への展開事例14件は評価できる。都市エリア産学官連携促進事業等での今後のコーディネータ活動の継続発展と、産学連携共同研究や他事業への展開が更に活発になることを期待する。

###### ⑤総合評価

コーディネータを先頭に事業が推進され、シーズ発掘、他事業への橋渡し等で成果も生まれているが、地域にコーディネータ機能が根ざしたかという点で不安が残る。経験あるコーディネータが引き続き地域で活動されることが望ましい。

##### (2) 長野県

拠点機関	：財団法人 長野県テクノ財団
科学技術コーディネータ	：田草川 信雄
事業実施期間	：平成11～14年度

###### ①地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

ヒアリング調査を主体にニーズ・シーズ調査が行われ、時間をかけた面談を通して企業ニーズを拾い上げた努力は評価されるが、地域の高い技術ポテンシャルを考慮すると、ニーズ調査の230件、シーズ調査の190件、計54回の研究会開催は十分とは言えない。今後は、技術レベルの高い、地域の企業にあるシーズの発掘や、長野県で得意な地域医療、農村医療、長寿の面を積極的に調査し、企業ニーズに結びつけることも期待する。

###### ②可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

41件の可能性試験から他事業への展開13件、商品化前段階24件といった活用が見られる点は評価できる。可能性試験のレベルを基礎技術から実用化に近いものまで4段階に分けて実施する工夫が見られる。今後は、ニーズの大きさを調査しながら積極的に企業化に繋げて行くことを期待する。

###### ③コーディネータ活動の公開状況

パンフレットRSPnagano Reportを毎年発行し、新技術プレゼンテーション10回とシーズ紹介講演会1回を通して、コーディネータ活動を公開した。また、県内大学等の研究者が技術移転を希望する研究シーズ集を財団のホームページに公開している。  
長野県内5地域の公設試にテクノコーディネータを配置して、科学技術コーディネータに協力するといった若手コーディネータの育成を図った。今後は、育成されたコーディネータの具体的な活動事例が、地域で認知されることを期待する。

###### ④地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

長野県にある研究と技術の高いポテンシャルを思うと、研究会の開催回数、産学共同研究件数の推移を、コーディネータの活動状況として、具体的な数値で示して欲しい。  
長野県内を5地域に分けたコーディネータ機能の構築や、公設試の若手研究者をコーディネータに育成する等、取組に広がりが見られる。今後、地域に密着したコーディネータ活動が期待されるが、地域にある大学、特に信州大学との連携を更に緊密にすることを期待する。

###### ⑤総合評価

可能性試験の活用は評価できる。さらに、ニーズを研究の現場につないで、実効のある研究が開始された事例があると良かった。事業の連携では、長野県の公設試が中心になっているように見える。今後は、信州大学の地域共同研究センターとの連携や、県内に存在する研究開発型企業等の技術ポテンシャルの活用が更に進むことを期待する。また、ビジネスにつながるコーディネータ活動を工夫することも望まれる。

##### (3) 鳥根県

拠点機関	：財団法人 しまね産業振興財団
科学技術コーディネータ	：酒井 禮男
事業実施期間	：平成11～14年度

###### ①地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

元々県内の研究開発ポテンシャルの蓄積が不足しているため、シーズ・ニーズについては研究会等を通して活発に探索・整理・活用がなされたとは言えないが、「しまね・つくばネットワーク」他県外との連携拡大への試みは評価できる。また、シーズ183件・ニーズ243件の数は必ずしも多くないが、コーディネータの努力が感じられる。県の実情を踏まえた上で、県外との協力を含め努力の姿勢が見えるが、掘り起こしたシーズ・ニーズをさらに厳選調査し、マッチングに努めることを期待する。

###### ②可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

可能性試験の件数は23件と相応の数をこなしているが、これまでは思うような成果をあげるには至っておらず、引き続き実用化に向けてのフォローが必要といえる。理工系大学が少ないという不利を、県外から補うなどの努力を行っており、また、ニーズの発掘でも努力している点、外部研究資金につながったものがいくつもある点を評価したい。

###### ③コーディネータ活動の公開状況

新技術フォーラムは相応に開催されているが、その他のコーディネータ活動はややアピール不足のように見えるものの、ネットワークの構築としては見るべき成果があった。データベース化については調査結果を表示するだけでなく、さらに細かいアフターケアが必要である。

###### ④地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

科学技術コーディネータが活動されている様子であり、工業技術センターを巻き込んだ形で組織的に実施する体制構築する必要がある。以前の交流の乏しい状況からは、ネットワーク構築によるコーディネータ活動の改善が認められる。今後、県単独の「しまね産学官協働推進(Shimane Collaboration Promotion Program: SCP)事業」等に引き継がれて発展することを期待したい。県のバックアップもあり、波及効果にもそれなりの実績が出来つつあるが、より地域性を発揮しながら、成果の発信と企業化に努力して外部資金の獲得に努めて欲しい。

###### ⑤総合評価

県の産業振興の歴史において、企業単独では不足しがちな技術力を学官のサポートにより強化しようと取り組んだこのRSP事業は、タイムリーで有効に活用されていると思われるが、取り組み方にやや未熟さが見られる。人口60万という県の特長性をも考慮すべきであるが、RSP事業のタイミングとしては良かったと評価する。また、行政(鳥根県・松江市)、産業界が一体となって国に要望し、鳥根大学総合理工学部が平成7年10月に設置されたこと、平成8年5月に鳥根大学地域共同研究センターが設置されたことは、本事業の実施と今後の展開に大きく寄与している。

##### (4) 山口県

拠点機関	：財団法人 やまぐち産業振興財団
科学技術コーディネータ	：曾田 忠義
事業実施期間	：平成11～14年度

###### ①地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

山口県における21世紀づくりの指針「産業振興ビジョン21」に基づき重点育成分野(医療・福祉、環境・エネルギー、マルチメディア)を中心に研究会・分科会の開催、「山口研究者データベース」の作成、大学等の研究室訪問155件、企業訪問183件等で、地域における科学技術に対する着実な整備・活動が見られる。企業ニーズと研究シーズのマッチング43件という実績は、提供者間の意思疎通の努力とともにコーディネータ活動として実を結んでいる。今後、地域特性・優位性を掘り起こすために研究会等への地元企業の更なる参加を期待する。

###### ②可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

可能性試験は31件と活発に行われた。一方、新規性・独自性に欠け、他事業への展開(橋渡し)及び特許・事業化に結びつくものが乏しい。  
試験分野も限定され、「産業振興ビジョン21」に基づき重点育成分野に対して均等に配分されず、地域振興と距離があるものが多いため、より広い視点で試験を実施し、成果の活用が望まれる。

###### ③コーディネータ活動の公開状況

フォーラム、説明会で情報公開に努めるほか、ホームページ等でもシーズ・ニーズに係る研究者、企業情報の提供を積極的に行いながら、「やまぐち研究者info」等の印刷物発行、新聞発表等の紙作りの面でも多様な公開活動の実績をあげた。今後、本事業において構築されたデータベース及び研究会等の公開情報の更新及び新規コンテンツの作成に向けた取り組みを期待する。

###### ④地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

平成14年度から県が「山口県産学官イノベーション創出推進委員会」を設置するなど、県としてのバックアップ体制に期待ができる。また、産学公連携コーディネータ・サブコーディネータ配置など、地域独自の活動が推進されていることから、今後も、継続的な発展を期待する。一方、山口県が目指す技術開発の実体が見えないため、本事業による効果を明確にする必要がある。

###### ⑤総合評価

県として産学官連携に力を入れはじめているが、産学官連携で全国的に実績をあげている山口大学との連携が、特許及び事業・実用化の面から上手く結びつかなかった点等は惜まれる。山口県の産・学との総合的に高い水準と行政の活動度を考えると、本事業の効果と実績が伴っていない感がある。  
産学官連携を成功させるためには、シーズ・ニーズを結合させるコーディネータ等の目利き人材が不可欠であり、公設試の職員を含めてこの役割を果たす人材の登用を期待する。

##### (5) 徳島県

拠点機関	：財団法人 とくしま産業振興機構
科学技術コーディネータ	：上田 和男
事業実施期間	：平成11～14年度

###### ①地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

アンケート調査1,172企業、ヒアリング194企業と積極的な企業ニーズの調査及び精力的に開催された106回の技術分野別研究会(32研究会)が研究シーズと結びついた点は評価される。今後、インターネットを利用したデータベースの公開等によるシーズ・ニーズ調査の整理を期待する。

###### ②可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

研究企画、分野別研究会、27件の可能性試験及びコーディネータが発掘した課題から、24件が提案公募型の事業に採択されている点は評価できる。  
他方、可能性試験を選択する基準が不明確で、試験結果をどのように活用するかという戦略性がみえない。その結果、特許・論文に結びつく成果がほとんど出ていない。特に、地域の資産としての知的財産を蓄積し、活用するための考え方を十分に検討し整理する必要がある。

###### ③コーディネータ活動の公開状況

成果発表会、新技術説明会、フォーラム等計16回の開催は、可能性試験の成果公開等に繋がり積極的な取り組みが行われたが、公開活動の面においても大学との連携が必要である。  
他方、ホームページ等におけるシーズ・ニーズ情報、コーディネータ活動の公開が十分でないため改善を期待する。

###### ④地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

コーディネータの活発な活動がみられたが、各種事業への事業化・知財化の面でのコーディネータ機能が不足している。アシスタントコーディネータを6名配置して、本事業を推進された点は評価できる。今後、アシスタントコーディネータが徳島県において中心的な役割を担うことを期待する。

###### ⑤総合評価

32の研究会をのべ106回開催し、研究シーズを掘り起こした点は評価できる。企業ニーズの収集にあたっては、これまでに各種支援事業等でかわりのあった企業に偏った印象があり、今後は新たな企業への接触、ニーズ発掘を積極的に行なうことを期待したい。  
将来に向けた地域主体の産学官・事業展開を考慮すると、可能性試験の成果である特許権に対する認識を持つ必要がある。  
平成13年度から設置された産学官連携コーディネータの活動状況や、各種他事業への展開について、県としてRSP事業終了後の財団・公設試等を中心とした展開ビジョン・推進体制を一層明確にする必要がある。

##### (6) 佐賀県

拠点機関	：財団法人 佐賀県地域産業支援センター
科学技術コーディネータ	：籾本 峻司
事業実施期間	：平成11～14年度

###### ①地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

企業訪問による地域ニーズの発掘は744社におよび、研究シーズの探索も精力的に行われた。また、調査に基づく研究データベースの構築、研究会の設置、フォーラムの開催など一定の成果が得られており高く評価できる。但し、研究シーズに関する内容に表面的な印象がある。ニーズ・シーズのマッチングにより8テーマの可能性試験を実施しているが、マッチングの成果やそのためのコーディネータ活動の努力が今ひとつ見られない。環境・バイオ・セラミクス等の独自性を出すなど戦略的な活動が望まれる。

###### ②可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

可能性試験は地域性が反映されたテーマを中心に31件が行われた。可能性試験の成果をもとに、国・県のプロジェクトに7件が採択され、また、可能性試験は実施しないものの、研究シーズの展開として提案公募型事業に10件橋渡しされたこととあわせて、ほぼ妥当と考えられる。これらの展開により実用化に近い成果が生まれている点、特許件数が22件という点は評価できる。

###### ③コーディネータ活動の公開状況

4年間で3人、コーディネータが交替したことは、コーディネータ活動の継続性という点で疑問が残るものの、新技術フォーラム、公開セミナー、研究会の開催等は活発に行われており、その情報とこの内容の公開だけでなく、感じられ高く評価できる。しかしながら、これらの活動状況を単にデータベースとして公開するだけで不十分であり、特にシーズに関しては研究テーマとその内容の公開だけでなく、研究結果を示す等の積極的なコーディネータ活動が望まれる。

###### ④地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

地域産業に則した産学官のコーディネータ機能およびネットワークの構築は意義が大きく、事業化を意識した特許出願が多いなど、一定の成果を生み出した。また、拠点機関における人材・組織の整備や県単独事業等におけるコーディネータ業務の継続など、さまざまな活動を継承・発展させる県の姿勢は評価できる。今後は、佐賀大学地域共同研究センターをはじめ、各学部との組織的連携の強化にも期待する。

###### ⑤総合評価

本事業に対しては、コーディネータ以外に専任スタッフ6名、県独自の非常勤サポートコーディネータを配置し、意欲的に取り組み概ね成功と評価できる。地域特有の産業集積(伊万里・有田地域のセラミック産業など)の活用や、平成16年度運用予定のシンクロトン光応用研究施設を核とした研究開発プロジェクトの検討において、県としての戦略をより具体化する必要がある。今後の事業化を含めた展開に関しては、県内のみにとらわれず全国規模の広域的視点、他の地域政策事業への展開が望まれる。

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成14年度終了地域事後評価報告書

平成15年10月  
独立行政法人 科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会

#### 4. 活動実績(終了報告書をもとに事務局作成)

##### (1)成果一覧

地域名	フォーラム (開催回数)	研究会 (回数)	可能性試験 (課題数)	他の事業への展開		
				文部科学省	経済産業省	その他
福島県	9	99	27	1	12	6
長野県	11	54	41	4	4	6
島根県	7	69	23	3	12	59
山口県	6	83	31	1	1	6
徳島県	10	106	27	1	0	3
佐賀県	18	56	31	1	2	5



# 地域研究開発促進拠点支援 (RSP) 事業 (ネットワーク構築型)

## 平成14年度終了地域事後評価報告書

平成15年10月  
独立行政法人 科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会

### 4. 活動実績(終了報告書をもとに事務局作成)

#### (2)地域ごとの活動実績

①可能性試験テーマ名(カッコ内は実施年度)

福島県 長野県 鳥根県 山口県 徳島県 佐賀県

地域名	可能性試験テーマ名	
福島県	移相差法(位相シフト法)による超音波医療診断装置の開発(H11)	
	県農産物を利用した機能性食品の開発(H11)	
	製造プロセスにおける高性能評価装置の開発(H11)	
	プラスチック素材の超吸水性とその有効利用(H11)	
	交流表面光電圧による半導体汚染の計測装置の試作(H11)	
	エアジェント機能による仮想都市のリアフリーシミュレーション(H11)	
	コネクタ-絶縁体成形用の高性能成型技術の開発(H11)	
	高分子材料の熱分解分析用自動挿入装置の開発(H11)	
	双方向型高効率電源装置の開発(H11)	
	自然環境に対応したハイブリッド塗装工法の研究(H11)	
	自己修復及び鉄筋の防錆機能を有するインテリジェントコンクリートの開発(H12)	
	不可逆磁率測定装置の開発(H12)	
	インフラボン含有加工食品の生理機能の検討(H12)	
	自立型ハイブリッド車椅子の開発」-(1)(H12)	
	自立型ハイブリッド車椅子の開発」-(2)(H12)	
	薬剤耐性ヘリコバクターピロリ菌判定方法の開発(H12)	
	薬剤耐性ヘリコバクターピロリ菌判定方法の開発(H13)	
	高機能な多機能電動義手の開発研究(H13)	
	廃木材を再資源化した木材混入舗装材及び断熱材型枠の開発(H13)	
	座面安定保持型センサ付電動車椅子の開発(H13)	
ホームケアサービスサポートシステム(Homecare Service Support System)の開発(H13)		
バイカルサイレンサデバイス、脳波計等を用いたコミュニケーションシステムの開発(H14)		
光ファイバー加工端面検査装置の開発(H14)		
マイクロマシンング法による微細金型の製作方法の検討(H14)		
高機能な多機能電動前腕義手の開発(H14)		
地域密着型仮想生産システムの開発(H14)		
表面光電圧・マイクロ波PCDプローブによる半導体表面評価装置の開発(H14)		
長野県	機能性物質(ポリフェノール類)の多試料同時検査を可能とする簡易迅速分析技術の開発(H11)	
	超磁歪材料を利用したアクチュエータ、センサのマイクロ化技術に関する研究(H11)	
	STD(See-Through Display)素子の可能性試験(H11)	
	メンタルヘルスセルフケアのための心理検査システムの試作(H11)	
	デジタル駆動式積層セラミック微小変位アクチュエータ等の開発(H11)	
	有機半導体レーザーの可能性評価(H11)	
	全面マルチ対応レタス収穫機の試作開発(H11)	
	アルツハイマー型痴呆症予防効果を有する発芽玄米による機能性食品の開発(H11)	
	高精度微細制御機構に基づき次世代めっき技術の開発と微小電極等マイクロエレクトロニクス実装部品への応用(H12)	
	骨接合を目的とした生体親和性新材料の開発(H12)	
	光応用計測による果実の生育管理情報システムの開発(H12)	
	培養心筋細胞による動脈の心臓化に関する研究(H12)	
	ホトミルト記録材を用いた点字プリンタの開発(H12)	
	高高度山岳施設対応の高性能無希釈し尿処理装置の開発(H12)	
	実装用有機基板表面の精密改質による高密度微細化線技術の開発(H12)	
	多層超磁歪薄膜の開発とマイクロデバイスへの応用(H12)	
	高速で大変形する柔軟駆動材料の開発と応用(H12)	
	全面マルチ栽培用レタス収穫システム(H12)	
	機能性食品の素材としての発芽玄米の機能解明(H12)	
	並列信号処理による印刷検査の高速化(H12)	
	多用途新型内接歯車ポンプの開発とこれを用いた複合型無段変速装置の開発(H12)	
	肝細胞の工業(バイオリアクター)・医療(人工肝臓)への応用(H12)	
	高性能高分子中空糸膜の研究(H12)	
	インターネット応用コミュニケーションシステムの開発(H13)	
	高性能高分子中空糸膜の研究(H13)	
	肝細胞の工業(バイオリアクター)・医療(人工肝臓)への応用(H13)	
	マイクロ波を用いた移動体センサに関する研究(H13)	
	高ルチン含量ソバ品種の育成と利用(H13)	
	血中HMGコリン質検出試薬の開発とその臨床応用のための解析(H13)	
	多用途新型内接歯車ポンプの開発とこれを用いた複合型無段変速装置の開発(H13)	
	ガラス製マイクロ光学デバイスの成型(H13)	
	微生物消化による余剰汚泥の減容化とメタンガス回収に関する研究(H13)	
	食品加工残渣の酢酸発酵による食品素材化に関する研究(H13)	
	超微細プレス加工用超硬材料の汎用性精密摩耗試験法(H13)	
	有用キノコの栽培法の確立と利用に関する研究(H13)	
ガラス製マイクロ光学デバイスのプレス成型用カーボン系超精密スーパー金型の開発(H14)		
そばレジスタントプロテインの分離技術及び機能性食品素材としての利用技術の開発(H14)		
感性情報の計測技術及び数値処理技術の開発(H14)		
小型超高速回転体及び軸受の開発(H14)		
超精密プレス加工用超硬材料の汎用性精密摩耗試験方法(H14)		
有用キノコの栽培法の確立と利用に関する研究(H14)		
鳥根県	県産ゼオライト等による防衛、調湿、吸臭機能を有するセラミック建材の開発(H11)	
	太陽光から機械動力と交流電力の同時発生システムの高効率化(H11)	
	酸化チタン被膜微細中空ガラス球体の開発(H11)	
	高速スピンドル利用による超耐熱合金の環境対応型精密形状加工技術の開発(H11)	
	微生物により生産されたキノコ類の食品への利用(H11)	
	キトサン・シルクを利用した医療材料の開発(H12)	
	ガスの吸脱着を利用した動力発生装置の開発(H12)	
	近赤外線を用いた水産物用調味液濃度維持装置の開発(H12)	
	県内産ゼオライト触媒を用いたPETの低分子化(H12)	
	花卉生産用苗選別ロボットの開発(H12)	
	プラズマ放電焼結における熱電変換材料の作製(H12)	
	超臨界二酸化炭素による食品素材からの機能性成分抽出に関する研究(H13)	
	西条柿の脱渋過程で存在するタンニン類の検索及び生体に対する機能性向上を目指した脱渋法の検討(H13)	
	ガーネット溶射皮膜による脱臭触媒発熱素子の開発(H13)	
	フタロシアニン・フラーレンを用いた光電池の開発(H13)	
	多刃エンドミル工具による難削材料の高速切削加工技術に関する研究(H13)	
	光環境の調節、特に赤色の付加照射による施設栽培植物の病害防止(H13)	
	酸化亜鉛による高効率紫外線デバイスの開発(H13)	
	天然色素の退色防止と機能性食品としての利用(H14)	
	地域環境の修復と産業振興に役立つ人工衛星情報加工システムに関する研究(H14)	
フレリエライト(天然ゼオライト)の利用法に関する研究(H14)		
高輝度な青色蛍光を発光するポリマーの開発とその応用(H14)		
環境に優しいセラミックス建材の開発(H14)		
山口県	ナノユニットの表面改質による粒界自由制御セラミックスの開発(H11)	
	医療・福祉用メカトロニクスに関する研究(H11)	
	超精密開頭機器(装置)の開発(H12)	
	放電プラズマ焼結法による金属/酸化鉄軟磁性積層体の開発(H12)	
	高性能クマトグラフィ免疫バイオセンサの開発(H12)	
	不連続面を考慮した斜面崩壊の予知技術の開発(H12)	
	含塩素廃プラスチック等のリサイクル処理で発生する塩素系化学種の完全無害化(H12)	
	ガラス瓶リサイクル粉を利用したフロー制御型水質浄化資材・システムの開発可能性試験(H12)	
	炭酸ガス固定による人工砂の開発(H12)	
	古紙の再生原料化・形成化装置の開発(H12)	
	酸化チタンを用いた藻類抑制技術の開発に関する研究(H12)	
	新しい手術器具の開発—特に鏡視下手術器具の開発—(H12)	
	高速電荷可動エネルギーデバイス有機材料の開発(H12)	
	アコヤガイ副産物の抗菌剤及び抗酸化剤への利用に関する研究(H12)	
	海上及び陸上移動体用マルチメディア型アンテナの研究開発(H12)	
	光触媒作用を利用した環境浄化材料の開発(H12)	
	手押し車椅子の縦列連結装置の開発(H12)	
	POCラスタを用いた構造設計支援システムの構築(H12)	
	MRI内用医療器具材料及びそのマイクロマシンング技術に関する研究(H13)	
	熱プラズマプロセスを用いたアルミ缶リサイクル材の高品質化と有効利用(H13)	
	微細加工技術を用いた環境に優しい超寿命電着工具の開発(H13)	
	マグネシウム合金用不活性ガス封入泡切削装置の開発(H13)	
	マイクロバブル発生技術を利用した清酒貯蔵技術(H13)	
	フレキシブル耐圧容器の開発(H13)	
	野生酵母の醸造特性を改善する新規交配育種法による特徴ある酵母とその清酒の開発(H14)	
	組織工学のためのセラミックスキャポールの作製(H14)	
	機能性成分を含有する高齢者にやさしい食品の開発(H14)	
	ヤーコビネガの製法研究と商品化(H14)	
	ジオポリマーバインダーによる加圧流動床ボイラー灰の固化と材料化(H14)	
	マイクロバブルを用いた高効率ストリッピングプロセスの開発研究(H14)	
	疾患誘発因子の工業的固定法の確立と医薬品への応用(H14)	
	徳島県	人体末梢動脈位置の自動検出及び運動中の自動追尾手法の開発(H11)
		がん細胞に特徴的な生体エネルギー代謝系を利用した新規医薬品開発のための試験研究(I)(H11)
		ペーシング研削加工層の高密度成形に関する可能性試験(H11)
		産業副産物の建設材料化及び利用に関する可能性試験(H11)
住宅における複合自然エネルギー利用システムの効率的使用技術の可能性試験(H11)		
熱裂を抑制する高効率加工システム構築の可能性試験(H11)		
新規・放電式ヨウ素レーザーの開発とその応用の可能性試験(H11)		
カラー画像を用いた3次元物体の特徴抽出に関する可能性試験(H11)		
食品中の有害物質迅速検出法の可能性試験(H11)		
がん細胞に特徴的な生体エネルギー代謝系を利用した新規医薬品開発のための試験研究(II)(H12)		
サスペンション・ウオーター・ジェット現地切断ロボット開発の可能性試験(H12)		
アクチュエータレスな医用超音波ドブラプローブ指向性制御の可能性試験(H12)		
特殊環境微生物を利用した阿波藍加工システム構築の可能性試験(H12)		
溶接外観定量化装置の可能性試験(H13)		
徳島県の実態特性とその利用システムの可能性試験(H13)		
竹繊維で強化した高強度グリーンコンポジット開発の可能性試験(H13)		
県産スギを利用した軽量床衝撃音低減化の可能性試験(H13)		
食品由来カルシウムの生体利用性に及ぼす柑橘果汁の影響(H13)		
Wavelet変換による装置故障診断システム開発の可能性試験(H13)		
高機能クラッド材の創製および施工プロセスの可能性試験(H13)		
高周波リア放電を用いたディーゼル排出ガス後処理装置の可能性試験(H14)		
豆腐の新しい食味評価法の可能性試験(H14)		
メカニカルブレティングの可能性試験(H14)		
ダイヤモンドなど炭素系材料を利用した新規高硬度耐久性バイオ基材の開発(H14)		
低分子量リポリサクライドによる自然免疫賦活とこれに基づく耐病性獲得に関する可能性試験(H14)		
癌の免疫療法及び遺伝子治療への応用を目指した細胞膜機能改変技術の可能性試験(H14)		
野外自立LEDサインシステム開発の可能性試験(H14)		
佐賀県	ミカン搾汁残渣を原料とする砒素吸着剤の製造法とその利用方法に関する研究(H11)	
	植物系バイオマスの水熱分解による環境低負荷型エネルギー変換技術に関する研究(H11)	
	ゼロエミッション型有機廃棄物完全分解処理システムの微生物学的研究(H11)	
	小ネギF1品種の開発に必要な雄性不稔系統の実用性試験(H11)	
	二軸式ドライ真空ねじポンプの開発(H11 補正分)	
	接触酸化用新規機能性材料を用いた水質浄化装置の開発(H11)	
	高エネルギー密度スーパーキャパシタの開発(H11)	
	未利用タンパク質由来オリゴペプチドの生理機能とその高度利用に関する研究(H11)	
	小ネギF1品種の開発に必要な雄性不稔系統の選抜及び増殖(H12)	
	カルコバライト型薄膜太陽電池の研究開発(H12)	
	粘土鉱物からのゼオライト/ムライト複合ハニカム体の水熱合成と特性評価に関する研究(H12)	
	表面比抵抗精密測定装置の開発とその応用可能性の研究(H12)	
	緑茶の新規薬理作用の臨床試験(H12,H13)	
	揮発性有害物質を吸着回収する炭素/セラミックス多孔体の開発(H12,H13)	
	アルミナ・ナノ繊維/セラミックス複合多孔体の開発(H12,H13)	
	果樹病害リアルタイム発生予測システムと害虫自動計測システム(H13)	
	ヒト遺伝子を導入した病態モデル動物の開発(H13)	
	無鉛赤絵具用酸化鉄微粒子の水熱合成と発色に関する研究(H13)	
	手書き文書および図書からの検索キーワードの抽出(H13)	
	緑茶成分の新規抗アルツハイマー病薬理作用の探索(H13)	
蛍光反応を利用した非破壊・ビジュアル型植物ストレス解析装置の開発(H13)		
セラミックス用機能性コーティング材料の探索(H13)		
セラミックス用イオンブレティング装置の開発と実用化試験(H13)		
果樹ウイルスの実用的高感度診断薬の開発(H14)		
CAD/CAMシステムを利用した陶磁器製品デザインと原型製作プロセスの開発に関する研究(H14)		
石膏廃材を利用した水酸アルuminatesの合成プロセスの開発(H14)		
半導体電極表面のマイクロ形態構造制御による高効率光電変換セルの開発(H14)		
スバビからの粘性多糖ポリフィランの免疫賦活能に関する研究(H14)		
閉鎖性内湾における貧酸素水塊発生抑制技術の研究開発(H14)		

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成14年度終了地域事後評価報告書

平成15年10月  
独立行政法人 科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会

#### 4. 活動実績(終了報告書をもとに事務局作成)

(2)地域ごとの活動実績  
② 諸事業に展開した例

福島県 長野県 鳥取県 徳島県 山口県 佐賀県

#### 福島県

(1) 文部科学省関係

○「都市エリア産学官連携事業(郡山エリア)」(H14～)  
「触覚センサ技術を核とする医療福祉機器及びその周辺技術の開発」

(2) 経済産業省関係

○ベンチャー企業支援型地域コンソーシアム研究開発事業(H11)  
「紙面に描く電子署名照合システムの研究開発」  
○地域活性化創造技術研究開発費補助事業(H14)  
「超臨界二酸化炭素及び窒素を用いた超軽量、高精度プラスチック製品成形システムの開発」  
「多面体同時迅速同定の技術開発」  
○経済産業省中小企業庁創造技術開発事業(H14)  
「生活習慣病関連遺伝子—塩基多型(SNPs)の新規診断方法の開発」

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

○農林水産省 中小食品産業・ベンチャー育成技術開発支援事業(H11)  
「低温蒸気加熱加工法に関する研究」  
○地域活性化創造技術研究開発補助事業(H12)  
「HLAクラスB遺伝子型判定法に関する研究」  
「液晶カラーフィルタへの高機能膜形成及び製造に関する研究」  
○福島県産官共同研究開発事業  
「製造プロセスにおける高性能評価装置の開発」(H11)  
「県産農産物を利用した機能性食品の開発」(H12～H14)  
○福島県中小企業経営革新計画支援事業費補助事業  
「蒸下障害者用食品の開発」(H12)

#### 長野県

(1) 文部科学省関係

○科学技術振興事業団独創的研究成果育成事業(H11)  
「有機EL技術によるSTD素子の研究開発」  
○科学技術振興事業団委託開発事業(H11)  
「有機EL技術によるSTD素子の開発研究」  
○科学技術振興事業団新規事業志向型研究開発成果展開事業(H12)  
「血液凝固因子生産型バイオリアクター」  
○文部科学省知的クラスター創成事業(H14)  
「有機半導体レーザの開発」

(2) 経済産業省関係

○創造技術研究開発補助金(H12)  
「角度センサーの高度化に関する研究」  
○課題設定委託事業(NEDO)  
「有機高分子ITデバイス材料及び構造解析評価技術の開発」(H12)  
○即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業  
「機能性高分子中空糸膜を利用した物質分離・富化装置の開発」(H13)  
「マイクロ波を用いた高機能移動体センサの開発」(H13)

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

○中小企業総合事業団課題対応技術革新促進事業  
「超磁歪材料を利用した機構部品の開発及びマイクロ化技術開発」(H11)  
「高度山岳地帯における高効率低環境負荷型処理システム開発」(H11)  
「高分解性微生物を用いた処理並びに有機性高濃度排水処理装置に関する研究開発」(H12)  
○農林水産省ITプロジェクト(農業研究機構)(H12)  
「分散協調型多次元農産物情報センシングシステムの開発」  
○ベンチャー企業国際共同研究開発補助事業(H13)  
「人工衛星搭載用角度センサの開発」

#### 鳥取県

(1) 文部科学省関係

○科学技術振興事業団独創的研究成果育成事業(H11)  
「資源循環型水質浄化システム」  
○文部科学省ミレニアム・プロジェクト(H12)  
「化学農業に替わる」バイオ農業の開発」  
○都市エリア産学官連携事業(H14)  
「都市エリア産学官連携促進事業(一般型、宍道湖・中海エリア)」

(2) 経済産業省関係

○中国経済産業局地域創成技術研究開発補助金  
「鋼材に含まれる微量酸素分析試料の作製装置開発に関する研究」(H12)  
「マイクロガスタービンによる施設栽培環境管理システムに関する研究」(H13)  
「高濃度酸液中の鉄電解による土木工用汚濁水処理プラントの開発」(H13)  
「濃赤泥汚泥減容化装置及びそのシステムの開発(高温電解分解腐植法)」(H13)  
「ガスとパルスプラズマを組合せた複合型外熱式バリアリタ窒化装置の開発」(H13)  
「液体有機原料を用いたSiC材料の高速成膜プロセスの開発」(H14)  
○ベンチャー企業支援型地域コンソーシアム研究開発事業(NEDO)(H12)  
「マイクロペルチェを利用した触覚ディスプレイの開発」  
○中国経済産業局地域創成技術研究開発補助金(H14)  
「環境配慮型長寿命複合コーティング金型の実用化」

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

○(財)しまね産業振興財団戦略的産業共同研究推進事業  
「機能性食品として抗酸化効果と免疫増強効果のある玄米エキスを配合加工米の研究開発」(H11)  
「プラズマ発生用マイクロリリス電源の制御ソフトウェア開発」(H11)  
「施設内栽培果樹のハウス内好環境制御機器の開発」(H11)  
○(財)しまね産業振興財団提案公募型委託研究事業  
「太陽光から機械動力と交流電力の同時発生システム」(H12)  
「酸化チタン皮膜を有する中空ガラスバルーンの効率的製造技術とその利用法に関する研究」(H12)  
「環境保全型機能性コンクリート製品の開発」(H12)  
「再生燃料油の高品質化」(H13)  
○(財)しまね産業振興財団産業創出総合支援助成金 (H11) 6件、(H13)9件、(H14)11件  
「タブレットを利用した音声応答メニューソフト「ペンタツチメニュー」の開発ならびに情報提供サーバの構築」(H11)  
「新しい学校教育に対応した教育情報データベースの研究開発」(H11)  
「低分子キチン・キトサン特保飲料の開発」(H12)  
「環境安全(EHS)対応原料による機能性材料製造データベースの構築およびシミュレーション技術の開発」(H12)  
「歯車ホーニング加工の効率化と高精度歯車の製造技術に関する研究」(H12)  
「木材チップ(商品名:グロブマルチ)の利用技術」(H12)  
「ヤマトシジミ(Corbicula japonica)の高密度蓄養技術の開発」(H12)  
「風洞型リニア風力発電機と太陽電池によるハイブリッド発電における自然エネルギー利用の最適化システムの開発・改良」(H12)  
「微細気泡発生装置」開発」(H12)  
「石州瓦(新製品も含む)の新しい施工方法の研究開発」(H12)  
「複数先転送電話」(H12)  
「一般住宅用スプリンクラー消火設備」(H12)  
「飛行船自律航行システムの開発」(H13)  
「多目的自動販売機の簡易通信システムの開発」(H13)  
「効率的・環境保全型ハウス栽培用暖房機器の開発」(H13)  
「メロン・トマト・母等果実類の省力・軽作業化栽培装置システムの開発」(H13)  
「視覚障害者歩行誘導システムの開発」(H13)  
「Web教材配信システムの開発」(H13)  
「糸綴じカンダ製本機の開発(縫い目が表にでないカンダ仕様)」(H13)  
「告知通信端末の開発」(H13)  
「植物ステロール添加加工米の開発研究」(H13)  
「快削生錆鉄材料による製造コスト低減化および高機能自動車部品の開発」(H14)  
「環境浄化機能付風速赤外線センサーの開発」(H14)  
「ヤマトシジミ(Corbicula japonica)の美味化技術の開発～餌料用プランクトンの高密度短期大量培養技術の開発～」(H14)  
「精密歯車へのホーニング加工法の適用」(H14)  
「風洞実験による瓦の飛散・スリ防止研究と新型機能性瓦の開発」(H14)  
「製材帯鋸用取付け式チップ歯の研究開発」(H14)  
「シルク・キトサンを利用した医療用材の開発」(H14)  
「生体移植臓器、生体細胞、新鮮血保存用氷感装置医療用臓器保存氷感装置」(H14)  
「舞物舞踏鉄器から発生する集塵ダスト類を造粒、固化した土木材料の製造法とその利用研究」(H14)  
「生物脱臭を用いた循環型臭気分解装置の開発」(H14)  
「木質バイオマスのオンサイト利用」(H14)

○その他(松江市、出雲市ほか)  
「樹木(街路樹等)の育成を促進するための通気・排水パイプの開発」(H12);新ビジネス創業支援補助金(出雲市)  
「みつまた自動皮剥ぎ装置の開発」(H12);松江市

○中小企業総合事業団課題対応新技術開発事業(H13)  
「新機能性食品キュリエンの研究開発」

○(独)土木研究所民間提案型共同研究事業(H14)  
「閉鎖性水域の底泥対策技術に関する研究～湖底付近において長期測定可能なセンサーの開発と底質改善技術への応用～」

○鳥取県創造技術研究開発費補助金  
「鉄の電気分解と酸素溶解水による水質浄化システムの構築」(H12)  
「断層SW(インターネット)のノード制御器として利用する手段の研究」(H12)  
「下水汚泥及び畜糞等のCO2ボスト化における処理装置に関する研究」(H12)  
「水空効果翼艇の開発」(H12)  
「気密性の高い居住環境に対応した新量床の研究開発」(H12)  
「食品、食材の鮮度長期保持冷蔵庫の開発」(H12)  
「自動画像処理及びアップロード一体型データベース管理システムのASPサービス・アプリケーションの開発」(H14)  
「毛筆書体描画アルゴリズムの研究」(H14)  
「ダンボール箱上蓋除去装置の開発」(H14)  
「畜糞の乾燥加熱による堆肥化処理の研究」(H14)  
「自動車用歯車の世界標準製法の確立」(H14)  
「射出成形品取出口ポットアームの振動制御システム」(H14)

#### 徳島県

(1) 文部科学省関係

○科学技術振興事業団新規事業志向型研究開発成果展開事業(H11)  
「褐色脂肪組織の機能制御に基づいた抗肥満薬の探索システムの開発」  
○科学技術振興事業団独創的研究成果育成事業(H12)  
「放電触媒酸化素—ヨウ素—システム」

(2) 都道府県独自事業およびその他事業

○中小企業総合事業団課題対応技術革新促進事業の研究調査  
「ササペンション・ウォータージェット現地切断口ポット開発」(H13)  
「住宅における複合自然エネルギー利用システムの効率的運用技術」(H14)

#### 山口県

(1) 文部科学省関係

○知的クラスター創成事業(H14)  
「やまぐち・うべ・メディアカレッジ・バージョン・知的クラスター」

(2) 経済産業省関係

○中小企業技術開発産学官連携促進事業(地域ものづくり対策事業)(H13)  
(経済産業省、中小企業庁)  
「高活性光触媒を付した水質浄化材料の開発」

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

○情報ベンチャー事業化支援ソフトウェア等開発事業(情報処理振興事業協会)(H12)  
「瞬きスイッチを用いたコミュニケーションシステム開発」  
○(財)やまぐち産業振興財団地場産業総合振興事業  
(アダプティブポテンシャル活用促進事業)(H13)  
「建設支援構築の対話型積算システムの開発」  
○山口県技術開発産学官共同研究事業(H14)  
「環境対応型加工技術の研究開発」  
○山口県創造技術研究開発補助金事業(山口県)  
「折り畳み可能な中圧式大型シリアル耐圧コンテナの研究」(H14)  
「アルミニウム合金材料を対象とした泡状切削液方式による環境対応型加工技術の開発」(H15)  
○(財)周南地域地場産業振興センターものづくり支援事業(H15)  
「ヤーコンピネガーの需要開拓」

#### 佐賀県

(1) 文部科学省関係

○科学技術振興事業団独創的研究成果育成事業  
「ミカン搾汁残渣を有効利用した有害無機物質の吸着・除去剤の開発」

(2) 都道府県独自事業およびその他事業

○中小企業総合事業団課題対応技術革新促進事業  
「海産廃棄物の完全分解処理システムの実用化に関する研究」  
「地中探査用表層比抵抗精密測定装置」  
○佐賀県提案公募型産学官共同研究開発プロジェクト事業  
「高レイシ酸含量となる新規ダイズ品種の開発と産業的利用」  
「新開発材料による純緑色発光デバイスの高効率、高輝度に関する研究」  
○佐賀県起業家創出支援事業  
「電気二重層キャパシタ極板材料開発と電子機器・自動車・蓄電装置への利用」  
○佐賀県新世紀戦略型技術移転推進プロジェクト事業  
「VOC熱分解用βスズ系系(ハニカム)」  
「眼電図情報を用いた食事動作の運動機能補助装置開発」

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成14年度終了地域事後評価報告書

平成15年10月  
独立行政法人 科学技術振興機構 地域振興事業評価委員会

#### 4. 活動実績(終了報告書をもとに事務局作成)

##### (2)地域ごとの活動実績

##### ③ 実用化・企業化された事例

##### 福島県

○製品概要:	「オートショット・サンプラー」(熱分解分析用試料自動挿入装置)
開発企業(機関):	フロンティア・ラボ株式会社
もともになった可能性試験:	「高分子材料の熱分解用試料自動挿入装置」(H11)
販売実績:	31台(33百万円)(平成15年10月現在)

○製品概要:	「イソフラボン入り豆腐、同アイスクリーム、同ヨーグルト」
開発企業(機関):	福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター、福島県農業試験場、県内豆腐製造業、県酪農業協同組合
もともになった可能性試験:	「県産農産物を利用した機能性食品の開発」(H11) 「イソフラボン含有加工食品の生理機能の検討」(H12)

##### 長野県

○製品概要:	「24GHz、10GHzマイクロ波ドップラセンサモジュール」
開発企業(機関):	長野工業(株)
もともになった可能性試験:	「マイクロ波を用いた移動体センサに関する研究」(H13)
販売実績:	200台(7百万円)(平成15年10月現在)

○製品概要:	「高ルチン含量ソバエキス(液体、カプセル、粉末)」
開発企業(機関):	(株)フラミンゴ
もともになった可能性試験:	「高ルチン含量ソバ品種の育成と利用」(H13)

##### 島根県

○製品概要:	「カパライト」(調湿建材)
開発企業(機関):	(株)ヨーケン
もともになった可能性試験:	「県産ゼオライト等による防黴、調湿、吸臭機能を有するセラミック建材の開発」(H11)
販売実績:	11百万円(平成15年10月現在)
施工事例:	御所野遺跡(青森県一戸町縄文住居復元工事)、薬師寺(奈良県:平山郁夫作大唐西域絵画殿の内陣床)、教雲寺経倉(広島県)

##### 山口県

○製品概要:	「紙片分離サイクロン装置」
開発企業(機関):	(株)古江製作所
もともになった可能性試験:	「古紙の再生原料化・形成化装置の開発」(H11)
販売実績:	3台(3百万円)(平成15年10月現在)

○製品概要:	「セイフティークロス」(手押し車椅子の縦列連結装置)
開発企業(機関):	(株)岸田ステンレス工業所
もともになった可能性試験:	「手押し車椅子の縦列連結装置の開発」(H12)
販売実績:	10台(0.2百万円)(平成15年10月現在)



## 「地域振興事業評価委員会」委員名簿 (平成15年10月1日現在)

氏名	所属
別府 輝彦(委員長)	日本大学生物資源科学部教授
岩渕 明	岩手大学工学部教授
大泊 巖	早稲田大学理工学部教授
金井 一頼	北海道大学大学院経済学研究科教授
川崎 仁士	日本植生(株)岡山研究所長
小林 賢次郎	日本政策投資銀行新規事業部長
小松 一彦	日本電信電話株式会社フォトリクス研究所長
桜井 靖久	東京女子医科大学名誉教授
鈴木 衛士	日研化学(株)顧問
鈴木 紘一	東レ株式会社先端融合研究所長
豊玉 英樹	スタンレー電気(株)取締役研究開発センター担当
野長瀬 裕二	埼玉大学地域共同研究センター助教授
安井 至	東京大学生産技術研究所教授
安田 幸夫	名古屋大学大学院工学研究科教授
渡辺 公綱	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
高園 武治	独立行政法人 科学技術振興機構審議役

This page updated on November 18, 2003